

白山での悲しい出来事

登山は安全第一

山下 光信

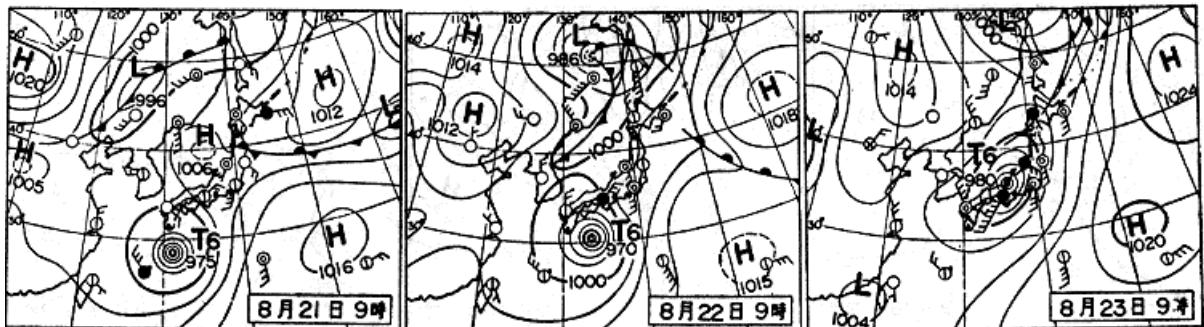
白山は、きれいな高山植物の咲くやさしい山のように思うのは、私だけでしょうか。そんな白山ですが、大雨や強風、霧の為遭難したというニュースを聞くことがあります。その都度、気象情報の収集や安全への心がけが必要であることを考えさせられます。先日、図書館に出向いた折、今から30年ほど前の昭和50年8月22日に、白山山頂付近（ビルバオ雪渓）で高校生2人が遭難したという痛ましい新聞記事を読みました。とても悔やまれ、目頭が熱くなるとともに、安全な登山に心がけることがとても重要だとつくづく思いました。



台風と遭難

昭和50年8月22日9時の地上天気図では（下図）、台風第6号が四国の南にあり、23日朝には北陸地方に進んでいます。台風の影響で22日の白山は、雨と風速10メートルを越える風が吹き、夜には1時間に10ミリを越える雨となり、風も更に強まりました。また、23日明け方には、台風の接近に伴い、風速が26メートルに達し大荒れとなりました。

遭難した二人は、21日に翌日（22日）夜帰宅予定で白山登山に出発しました。8月21日の天気図から考えると（下図）、このときすでに台風が近づいている事に、気づいていたと思われる。二人は、21日は室堂に宿泊し、22日早朝食料・登山具を室堂に置いて、軽装のまま山頂に向っています。山頂に到着後、強風と雨・ガスの中を、お池めぐりコースを回るため出発しましたが、途中登山道を見失い遭難したと思われます。山頂では、別の登山者と会っており、その登山者は、「横殴りの強い雨が降り、視程10m以下、気温も低く、手がかじかんで痛いくらいだった」と話しています。22日夜になっても帰宅しないことから、翌日（23日）悪天候の中を、室堂職員が捜索にあたり、午後2時50分に室堂から約3km離れた中宮道のビルバオ雪渓付近で一人の遺体を発見し、もう一人の高校生も、25日昼前にそのごく近くの、斜面で発見されました。

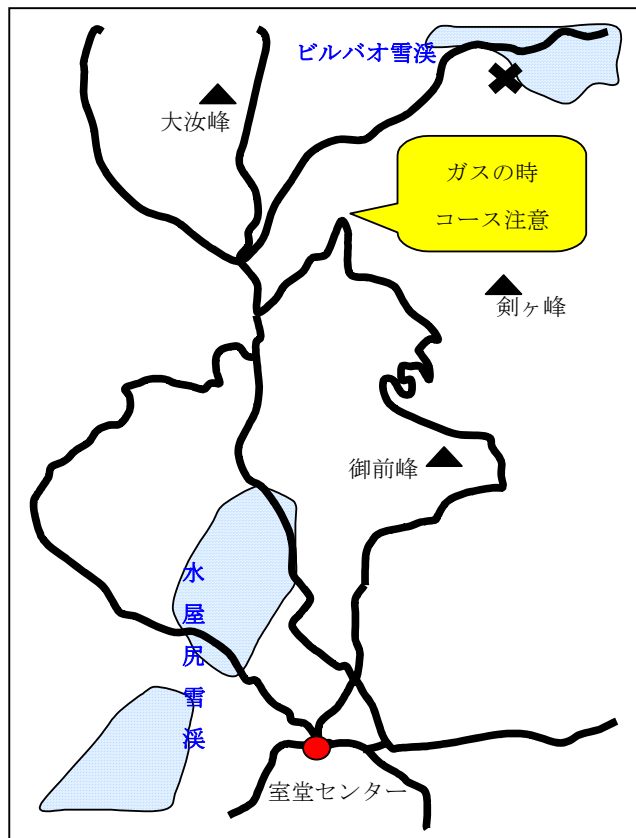


地上天気図 昭和50年8月21日～23日

原因は、悪天候のためお池めぐりコースで登山道を間違えたことによると思われますが、軽装で食料を持たず疲労と空腹と寒さの為、遭難を招いたと考えられます。台風が接近しており、すでに荒れ模様となっていただけにとても悔やまれます。高校生は、悪天候の白山の自然に挑戦したかったのかもしれませんが。

安全な登山を

いつもきれいな高山植物が出迎えてくれる白山でも、登山する時は台風や大雨など悪天となることが十分考えられます。このような時は、安全の確保に努めるとともに、登山を取止める勇気も必要だと思います。近年、福井豪雨や平成18年7月豪雨など記録的な大雨が、各地で発生しています。楽しく登山をするためには、安全を第一に考えたいものです。



参考資料：昭和58年度 東京管区気象台研究会誌
北国新聞 昭和50年8月



穏やかな白山山頂（御前峰）